

令和2年度 年末の全校集会

皆さん、おはようございます。コロナウイルス感染症との戦いに明け暮れた1年が終わろうとしています。1年を振り返るとつらいことや不安なことが例年よりも多かった気がします。その中で今週、本校に明るいニュースがもたらされました。卓球部の女子が大阪府大会を勝ち抜き、近畿大会に出場し、1回戦で京都の強豪、立命館高校を破って近畿のベスト32に入る躍進を遂げたのです。私は応援にいていましたが、本校の生徒の礼儀正しく、優雅で洗練されたプレーの中にも秘められた闘志を感じ、久しぶりに胸が熱くなりました。運動部にしても文化部にしても部活動はみんなの高校生活、さらに言えば人生に大きな影響を与えます。苦しい練習、厳しい練習に耐えるだけではなく、人間関係の軋轢に悩む。勝利を優先するか、部内の人間関係を優先するか、二者択一で答えがでるものではありません。時には顧問の先生との意見の対立もあるかもしれませんが、でもそれぞれの過程が皆さんを成長させてくれるのは間違いありません。社会の課題解決は利益が相反する事項がほとんどです。部活動は一人の力で成り立っているものではありません。皆さんは授業や学校行事だけではなく、部活動を通して社会に出る準

備をしているのです。もう一つみなさんに理解してもらいたいことがあります。部活動にしてもその他の休日に行う教育活動にしても、多くは先生方の奮闘努力で成り立っています。奉仕と呼んでもいいかもしれません。当然、先生方にも個人の生活があります。休日は自分の趣味の時間をもったり、家族と過ごしたいものです。でも皆さんの頑張る姿を見ていると、より多くの達成感を味あわせてあげたい、一生の糧となる力をつけてあげたいとの思いで先生方は皆さんの活動を支えているのです。どうかそのことは忘れないでください。

それでは最後にもうひとつ、今年、私の心が温まった千里生のエピソードを紹介して今日の話を終わりにします。9月から各先生の授業の見学を始めました。その中の一場面ですが、生物の授業を教室の後ろで見学していました。担当の先生が図説の説明を始めました。私の手元にはもちろん、その図説はありません。そのとき、最後列の女子の生徒がほんとうにさりげなく、恥ずかしそうに机の上の図説をそっと右にずらし、見える様にしてくれました。その優しい振る舞いに大感激でした。このように千里生のやさしさに思わず、感動させられることが今年も数多くありました。そんな千里生

に取って来年がよい年になることを願って私の話を終えます。それ
では皆さん、良いお年を。